

去年の単収をさらに超えろ!!
JA福井県産大豆の復活とさらなる飛躍を目指して

令和4年5月24日

Beans Phoenix No.1

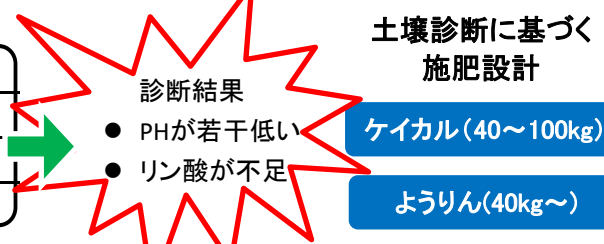
【JA福井県 福井基幹支店大豆部会】

土壌分析による収量・品質改善

大豆部会では地区委員の圃場を対象に土壌分析を実施し診断結果をもとに施肥体形の改善に取り組みます

【福井基幹支店平均】27点

項目	平均	目標値
PH	5.7	6.0~6.5
CEC	14.0	15~
リン酸	12.9	20~



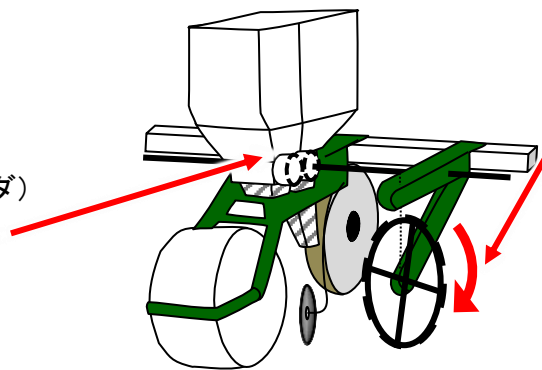
施肥設計提案のようす(永平寺支店管内)

里のほほえみ、高収量・高品質へのポイント(排水対策の徹底 苗立ち本数の確保)

1. 播種の準備

- 圃場排水の徹底
大麦跡の額縁排水等の手直し、排水不良の圃場は排水溝を増設する。
- 種子消毒
初期の害虫(ネキリムシ・タネバエ)対策と紫斑病は、種子に塗沫、粉衣処理をする薬剤で対策が可能です。
- 播種機調整(クリーンシーダ)
※条間の設定
・普通(培土): 70~75cm

対象病虫害	薬剤名	使用量	10aあたり 使用回数
紫斑病	ヘルコート 水和剤20	種子粉衣 (種子6kg当り24g)	1回
フタスジヒメハムシ・アブラムシ類・タネバエ・ネキリムシ類・ 紫斑病・茎疫病・苗立枯病	クルーザー-MAXX	塗沫処理 (乾燥種子6kg当り原液48ml)	
フタスジヒメハムシ・アブラムシ類・ タネバエ・ネキリムシ類	クルーザー-FS30	塗沫処理 (乾燥種子6kg当り原液36ml)	



播種機の調整(目安)
● 目標苗立ち本数: 12本/m
● 接地輪を3回転させた時の落下粒数が、50~55粒程度になるように調整する。

2. 播種作業

大豆は初期に湿害に遭うとその後の生育にも大きく影響します。播種前後の天候にも留意しましょう。播種後3~4日、好天が続くような時に播種すると出芽が良好になります。播種深度(覆土深)が、3cm程度になるか必ず確認しましょう。浅すぎると干ばつによる出芽不良になりやすく、深すぎると出芽が不揃いになったり、湿害を受けやすくなります。

- 播種量 : 里のほほえみ(36g/100粒重)
(普通)7.5kg/10a ・(狭畦密植)11.5kg/10a
- 基肥 : アグリフラッシュ444 20kg/10a
施肥(基肥)は根粒菌が着生するまでの栄養素
*スターター肥料 : ルートビーズ
(種子1kgあたり8ml)
- 耕起・整地 碎土率を高める
播種時の耕起は、耕深:15cm。碎土率(直径1cm以下の土塊の割合):70%以上が目標です。土塊が大きいと、出芽時の障害となります。また、土壌処理除草剤(特に粒剤)の効果が劣るので、碎土、整地を丁寧にいきましょう。

播種作業は丁寧に!!

- 『碎土率が上がると』
- 発芽・苗立ちが良くなる
 - 根量が増え根粒菌が増える
 - 除草剤の効果が十分に得られる
 - 培土がしやすくなる



3. 雑草対策

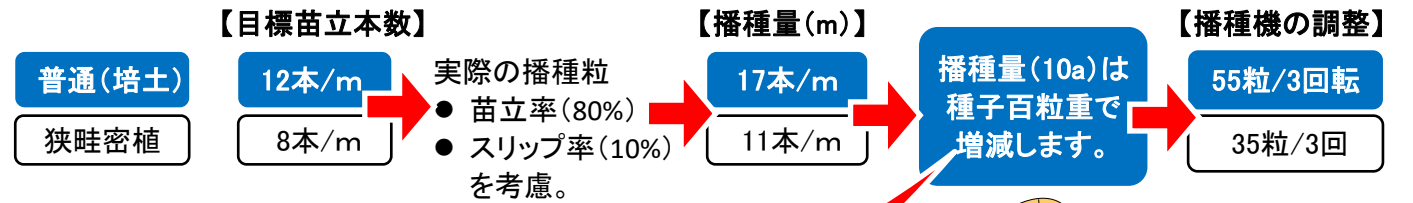
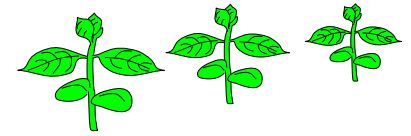
- 播種後に使用する土壌処理除草剤は播種直後に散布し、乳剤を使用する場合は噴霧頭に詰まりがないかなどを事前に点検し、規定量を散布する。
- 圃場が乾きすぎると効果が劣る。また、ドリフトによる他作物への薬害を防止するために、噴霧時の水圧や風向き等に注意しましょう。

①播種後、発芽前除草剤

薬剤名	使用量
エコトップ乳剤	500ccを水100ℓに
プロールプラス乳剤	4~6kg
サターンパアロ粒剤	4~6kg
トレファノサイト粒剤	4~6kg

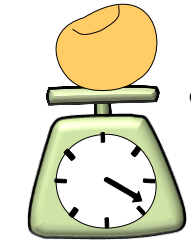
播種機の調整

①適正な播種量は播種粒数と種子重量で変わります。



②百粒重による適正播種量

播種量 (kg/10a)	百粒重(g)		
	34~35g	36~37g	38~40g
普通(培土)	7.0kg	7.5kg	8.0kg
狭畦密植	11.0kg	11.5kg	12.0kg



● 配達された大豆の百粒重を測定しましょう。

播種機の調整方法(例)

大豆と大麦で播種機を兼用する場合は調製が必要です。下記の資料を参考に播種量の調整を行い、圃場での播き始めは実際の面積で播種量の確認を行って下さい。

① 播種量設定の目安(繰り出しロールの間隔調整)

クリーンシーダは2種類あり、新・旧で種子の繰り出しロールに違いがあります。また、各播種機には、調整目盛がありますが個体差(誤差)があります。適正な播種量を播くため、実際の種子が入る繰り出しロールの間隔を調整しましょう。

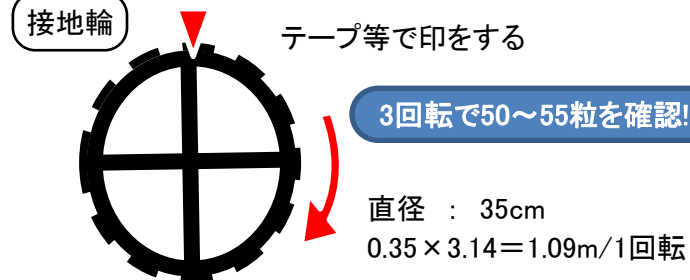
【参考】

百粒量	1円 枚数 (厚さ)	播種量/10aあたり(kg)	
		①普通(培土)	②狭畦密植
36g	8枚	7.5kg	11.5kg

苗立率(80%)・スリップ率(10%)を考慮。

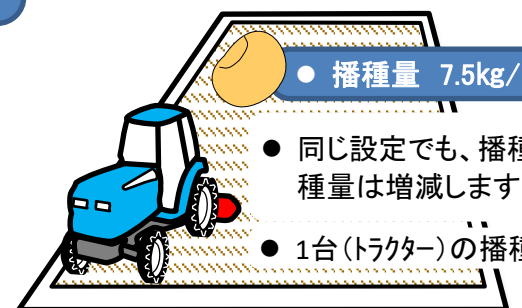
② 播種機での播種粒数の確認

播種機の接地輪を3回転させた時の落下粒数が50~55粒程度になるように微調整する。



③ 圃場での確認

実際の播種面積で種子量を確認しましょう。



● 播種量 7.5kg/10a

- 同じ設定でも、播種スピードで播種量は増減します。
- 1台(トラクター)の播種面積は2ha/日